

議会受付番号	鎌議第 1310 号
質問者	上島 寛弘議員
答弁する者	市長（総務部 職員課）

## 文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第 7 条第 3 項（鎌倉市議会会議規則第 105 条）の規定による文書質問について、次のとおり答弁いたします。

### 1 件名

組織力向上の為に女性の管理職登用の在り方等について

### 2 質問の要旨

鎌倉市として女性の管理職の必要性についてどのように捉えているのか。何故、管理職登用を推進しなくてはならないと市として考えているのか。年度を区切り、いつまでにこのような形であるべきだという目標はあるのか。無いなら何故目標を立てないのか。有るならその内容は何か。女性管理職登用の課題は何か。女性に限ったことではないが、管理職の外部人材登用は考えないのか。先述した課題、又外部人材登用にあたっての課題は何か。

### 3 答弁

男性も女性もそれぞれの個性と能力を発揮し、調和のとれた社会生活を形成していくためには、女性管理職の登用が必要と捉えています。本市においても、市民サービスの充実を図る上で、女性の視点を取り入れた行政運営が、より一層必要になることから、女性管理職の役割は、益々重要になると考えています。

国は 2020 年までに指導的地位に占める女性の割合を 30%程度とする目標を掲げています。平成 27 年度の本市の女性職員の割合は 29.7%で、女性管理職の割合は 5.3%と少ないですが、26 年度の 4.5%より上昇しています。係長級職員のうち女性の占める割合は 27.5%となっており、今後の目標として、管理職の直前の役職である課長補佐級職員を現在の 12.8%から 30%に近づけていきたいと考えています。

女性管理職登用の課題は、管理職への昇任に対する女性職員のモチベーションを高めることと捉えています。そのためには、仕事と生活の両立、育児や介護等、職員が抱える悩みを、職員が気軽に相談しやすく、適切な配慮や理解が得られるような職場環境を整えていきたいと考えます。

管理職を外部から登用することは、一般の採用と比較して、知識、技術、経験などがより高度に求められることから、その人材の確保に課題があると考えます。こうした課題を解決しながら、任期付職員の採用や選考による採用を活用し、積極的に進めていきたいと考えます。